

各学校が子どもたちの姿や地域の実情等をふまえて、学校教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づき教育課程を編成し、それを実施・評価し改善していくこと。



<3つの側面>

・各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標をふまえた**教科横断的な視点**で、その目標の達成に必要な教育内容を組織的に配列していく。

・教育内容の質の向上に向けて、子どもの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連の**PDCAサイクル**を確立する。

・教育内容と、教育活動に必要な**人的・物的資源**等を、**地域等の外部の資源を含めて活用**しながら効果的に組み合わせる。

<取り組み例>

学校関係者評価、
学校評議員会、
HP等を活用

職員会議・
学年会議・
教科会議等
既存の関連
会議の場を
活用する。

学校評価との関連
付けを図り、PDCAサ
イクルを機能させる

<充実を図るために>

「カリキュラム・マネジメント」とは全く新しい取り組みを導入することが目的ではなく、学校の実態に応じて、既存の取り組みや組織を生かしつつ、その取り組みの質の向上を図っていくことが求められている。